

みすていっく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

【第8話（ヒント編 3）】

あれから半月後、ミスティアは、王城の自分の部屋で寝転がっていました。オーブの並べ方の手がかりが掴みきれず、運試しのつもりで何度か適当にオーブを並べてはみたものの、何の成果もありませんでした。

ミスティア

「あーあ、落ち込んじゃう。王様たちも全然助けてくれないよ。ん？ なんか変よね？ これって宝物のオーブだよ？ 全部見つけたんだから、もっと大騒ぎになってもおかしくないと思うんだけど。お城の中で全然話題になってないみたい。なんでだろ……、んー、考えてもわかんない！」

そう言いながらミスティアが両手を広げると、左手が近くに積み上がっていた本にぶつかり、音を立てて本の山は崩れてしまいました。

ミスティア

「痛っ！ あ、これ図書館でずっと前に借りた本だ、返すの忘れてた。これを読んで、王国を冒険したいって思ったんだっけ」

（私もオーブは集めたけど、この本のお話みたいにはいかなかったなあ。お話に出てくる宝石だったら不思議なパワーを授けて冒険を助けてくれるし、並べ替えたなら……。……並べ替えたなら……。？）

ミスティア

「私が持っているのは、ブルー、シルバー、パープル、イエロー、それからコハクとピンク。ブルーの魔法文字はBではじまって、イエローは確かYだよ」

急いで起き上がり、本棚から魔法文字辞典を取り出したミスティアは、つぶやきながらページをめくっていきます。

「く……け……こ……こさ……こほ、あ、行きすぎた、……こへ……こは…こはく色。あっ！ ってことは、もしかして本当にそうなの？」

「残りの2つが……と……だったらいいんだから……この辞典じゃダメ！ 図書館に行けばきっと……」

借りっぱなしの本を残して、飛び出すように部屋を出て行きました。

～図書館～

図書館長

「おや、ミスティアさん、お久しぶり。そんなに急いでどうしたんですか」

ミスティア

みすていく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

「ちょっと探してる本があつて。はいこれ入館証」

図書館長

「どうやら延滞になっている本がありますね。それもものすごく長い期間。規則だと本を返すまで入館はできないことに」

ミスティア

「そこを何とかお願い！ 今日だけ！ 借りっぱなしでごめんなさい！ すぐ返しにくるから！」

図書館長

「仕方ないですね、特別ですよ。それと図書館の中では走らないように、ってちょっとミスティアさん！」

頼み込んで何とか入館させてもらうと、制止も聞かず一目散に魔法学の書架へ。並ぶ辞典の中から、色に関する一冊を引き出して広げます。

「まずは……の色……あつた！ それから……これもある！！ 分かった！！！」